

「認知症にやさしいまちづくり」について課題や必要と感じていること ～事前シートより～

<p>①認知症に関する理解を深める ・普及啓発・偏見の払拭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症になると何もわからなくなるといった偏見を払拭していく・理解を広めていく ・認知症に対する理解を深める事（地域における基盤） ・認知症という言葉は知っている人が多いが、それがどんな病気であるか適切な理解が必要 ・認知症である本人を家族や地域で支えていくためには、まず家族が認知症というものがどういった症状があり、今後どうなっていくのかを理解し、受け止めることで相談や支援を求めることに繋がるのではないか？ ・まだまだ認知症への理解が無い ・認知症サポーターなどの講座の開催は既に取り組んでいるが、認知症に対するパンフレットやチラシなどの啓発資料の配布を定期的に行うことも必要 ・大人だけでなく子供たちも含めて、社会全体でフォローできる環境を作っていくには、「ひとりひとりの認知症に対する意識」を高めることが必要。特に認知症の方への声掛けは必要 ・一般の人の認知症の理解は進んでいると感じる反面、周りに知られたくないという人はまだ多い。「嫁がいるのに介護施設に行かせるなんて可哀想」という周囲の人もいる。
<p>②地域とのつながり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で、周りとの交流が減っているのではないか ・普段の生活の中で、隣近所の方とは最低でも挨拶くらいはしておいて、つながりを持っておくことは大切→徘徊などの時に助かるため ・ケアマネや民生委員さんも大切だが、近所に何でも話せる友人がいると良い ・認知症であっても地域と繋がり続ける ・歩ける認知症の方が外へ出たときに、声掛けをしてあげられる人がいるかどうか？ ・最近は個人主義や個人情報で、他人との関りを望まない人が多くなっている ・担当地区の75歳（後期高齢者）以上の全ての方々との、訪問面会を行い、人間関係・信頼関係を築いていくこと

<p>③独居や老々介護の方への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独居や老々介護をしている方、また子供がいても協力的では無かったり、遠方に住んでいる方に対して、どのようにしていくべきか ・認知症の人がひとり暮らしを続けるために、金銭の管理・受診をどうするのか
<p>④認知症のかた本人の話を聞くこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方にとってどのような暮らしづらさがあるのか知ること
<p>⑤相談場所の普及・居場所づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症の方は、介護保険サービスの利用に対し抵抗があるケースが多く、通いたいと思える居場所づくり ・家族のサポート ・若年性認知症の相談があった。地域に活躍できるような場がない。元々人数も少ない ・どこの団体も一生懸命取り組んでいる。当事者とそのご家族がそれらの情報をどのようにキャッチし、利用することができるかがカギ→例えばクリニックの待合室に説明文を貼っておく、冊子を置いておくなどの方法はどうか、どこが相談の窓口になっているかだけでも良いと思う ・認知症カフェを開催しているが、認知症という言葉に抵抗があるのか、人が定着しない気がする。カフェは継続的に開催しているが、地域住民が親しむにはどうするか検討が必要だと思う
<p>⑥多職種の協働・資源の活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉関係者だけではなく、企業・学校・住民組織など異なる組織が協働していくこと ・介護している本人だけが大変にならないように、家族やケアマネージャー・デイサービス・訪問介護を上手に活用すること